『観無量寿経』概要：

お釈迦様がいつも説法されていた霊鷲山の山裾にマガダ国の首府・王舎城という都市がありました。頻婆沙羅王という王様と韋提希夫人という王妃様の間に阿闍世という皇太子が生まれました。ところが、お釈迦様をズーッと敵視していた提婆達多という男が、阿闍世をそそのかしてクーデターを起こさせました。阿闍世は頻婆沙羅王を倒して王位奪います。頻婆沙羅王を牢獄の中へ閉じ込め食事も与えず、水一滴も飲まさないで飢え死にさせようとします。韋提希夫人は息子を諌めるのですがいうことを聞かない。仕方なく彼女は頻婆沙羅王のところへひそかに食物を運ぶのですが、それがばれて、自身も阿闍世によって宮廷の奥に閉じ込められます。

幽閉された韋提希夫人はお釈迦様に救いを求めます。それに応じて宮廷に駆け付けられたお釈迦様が説法されたのが『観無量寿経』です。このお経はきれいごとではじまっているのではなく、人間の一番醜い姿がこのお経の発端になっています。

どうしようもない人間に光を与えようというのが『観無量寿経』というお経なのです。そういう切羽詰まった状態の人びとの心に安らぎを与えていくのが『観無量寿経』の目指すところです。